

PROFILE

平野 勝也

香川大学医学部自律機能生理学教授



2014年4月1日付で、香川大学医学部自律機能生理学（旧第二生理学）の3代目の教授に就任いたしました。

香川大学医学部は、1978年10月香川医科大学として開学し、1980年4月第1期生を迎えました。翌1981年4月第二生理学教室が開設され、初代教授には循環生理学を専門とする細見弘教授が就任されました。1997年1月、呼吸循環器の細胞分子生理学を専門とする小坂博昭教授が2代目の教授に就任され、2002年医学部基礎系講座の再編に伴い、教室名が自律機能生理学へ改称となりました。開設以来30余年にわたり循環器系の生理学を専門として発展してきた教室です。

私は、1985年九州大学医学部卒業後、循環器内科に入局し、2年間の臨床修練を終えて基礎研究の道に進みました。金出英夫教授の指導のもと、血管平滑筋の細胞質カルシウム濃度—張力同時測定装置の開発に携わり、平滑筋収縮装置のカルシウム感受性調節と蛋白質脱リン酸化酵素に関する研究で学位を取得しました。1990年から1996年までを米国アリゾナ大学 Muscle Biology Group で過ごし、平滑筋収縮機構のミオシンリン酸化説の提唱者ハートション教授の指導の下、ミオシン脱リン酸化酵素に関する蛋白質生化学および分子生物学研究を行いました。1996年帰国、九州大学医学部講師に就任してから、トロンビン受容体を含むプロテイナーゼ活性化型受容体の研究に新たに着手しました。血管系を中心に、この受容体の生理機能、発現や活性の調節、シグナル伝達に関わる基礎的な生理学研究から、脳血管攣縮や肺高血圧症などの難治性血管病に関わる病態生理学研究を行って参りました。香川大学におきましては、これまでの研究をさらに発展させ、実用化を目指すとともに、生体をシステムとしてとらえる

次世代の生理学研究に新たに挑戦したいと考えています。

今回から責任ある立場で医学教育を担当することになります。医学教育の目的は、科学的素養と豊かな人間性を兼ね備えた医師、医学者を育成することにあります。科学的素養とは、事実（患者の症状や所見/実験結果）を基に自らの意見（診断や治療方針の決定/実験結果の考察や次なる研究の立案・計画）を論理的に形成する能力と考えています。事実を正しくとらえる観察眼の鍛錬、真摯に受け入れる倫理観の涵養、意見を論理的に形成するための基盤となる知識の習得が医学教育の肝要と考えています。観察眼と論理的思考能力を育成する場が実習であり、医学知識を習得する場が講義であるのとらえて教育に当たってゆく所存です。

浅学非才の身ではありますが、生理学の研究教育、後継者育成に尽力致したく存じます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

略歴

- | | |
|-------|--|
| 1985年 | 九州大学医学部医学科 卒業 |
| 1985年 | 九州大学医学部循環器内科入局 附属病院 医員（研修医） |
| 1987年 | 九州大学大学院 研究生 |
| 1990年 | アリゾナ大学 Muscle Biology Group 研究員 |
| 1993年 | 米国アリゾナ大学 Muscle Biology Group Assistant Research Scientist |
| 1996年 | 九州大学医学部臨床細胞科学（現分子細胞情報学）講師 |
| 2006年 | 九州大学医学研究院分子細胞情報学 准教授 |
| 2014年 | 香川大学医学部自律機能生理学 教授 |